Global Peace Leadership Program

広島大学

広島大学が掲げる理念のひとつ

「平和を希求する精神」

広島大学ではこの理念にもとづき、

平和を願い求める崇高な精神を育み、

国際的教養人として世界で活躍する力を育成する

「Global Peace Leadership Program」を

展開しています。

広島大学長　越智 光夫

Concept

社会・文化・経済のグローバル化が急速に進んでいる現在、国際的な流動性は今後さらに高まることが予測されます。そのため、世界のめまぐるしい変化に柔軟に対応し、文化の異なる相手とも適切なコミュニケーションを行って自身の意見を述べることができる、グローバル人材の育成が強く求められるようになりました。

こういった背景を踏まえ、広島大学では「Global Peace Leadership Program」(略称:GPLP)を開設することとなりました。国際社会で通用する英語力、多文化社会における課題の発見・解決能力、リーダーシップ力、キャリア形成力を徹底的に鍛え、日本文化や平和についての理解を深めることで世界における日本人としてのアイデンティティを確立する、これからの社会でグローバルに活躍する人材を育てるプログラムです。

本プログラムの受講者は海外留学が必須となっており、留学という経験を通じて、海外の先進的分野における知識・技能・態度や思考力・表現力を学び、グローバルな人間関係の構築を目指します。海外での態度や行動様式に関する学びを得ることで、国際社会で生き抜くために必要な力を身につけ「平和を希求する国際教養力を備えたグローバル人材」を育成することを目標としています。

GPLPで育成する「5つの能力」

(1) 留学支援英語

グローバル化時代に対応するため、英語をコミュニケーションツールとして運用し、文化の異なる相手ともディスカッションすることができる能力を養成する。また、TOEIC® 800点レベルのスコアの取得を目標とする。

(2) 平和科目

英語によって開講される平和科目を学ぶことにより、平和について戦争・紛争、核廃絶、貧困、飢餓、人口増加、環境、教育、文化など様々な観点から考え、理解を深めることを目標とする。

(3) 国際交流科目

異なる文化や価値観を持つ他者と交流し、互いに啓発し合うことで新しい価値を生み出そうとする姿勢、異文化への寛容性、及びディベート能力を育成する。さらに、被爆地ヒロシマという特別な地域性を理解し、これからのグローバル化社会で必須となるチームワーク、リーダーシップ、プレゼンテーション能力といったマインド・スキルを修得する。

(4) 日本文化

美術、芸術、工芸、建築、文学、歴史、宗教、思想など様々な視点から日本文化を捉え、その基本的知識を身につけて、さらに理解を深めることを目標とする。

(5) グローバル・キャリア・デザイン

インターンシップやボランティア活動など、企業や地域社会との交流や連携を通じて、グローバル人材に求められる課題発見解決力、チームワーク力の養成を目標とする。また、自らのキャリア形成に対する意欲向上も目標とする。

Interview

1

「英語が話せない！」からのスタート
仲間との切磋琢磨で挫折を乗り越えアメリカ留学へ

子どもたちに英語を通じて世界を見せたい
想いが実現できる会社でさらなる夢を目指す

渡部 恭子 WATANABE Kyoko

西日本電信電話株式会社
総合科学部 総合科学科 卒業

2019年1月～5月 アメリカ・ネバダ大学リノ校へ留学。

日本好きの現地学生と大の仲良しに。
学内ジムでダンスクラスに参加したりとキャンパスライフを満喫。

憧れのホームステイでいきなりの挫折

私の大学生活での英語は、いきなりの挫折から始まります。広島大学には、新入生が短期の海外体験ができるSTARTプログラムという制度があり、私も1年生の終わりに17日間のニュージーランドでのホームステイを経験しました。ところが、滞在先の家族と全く会話のキャッチボールができなかったんです。話しかけられても「英語でどう伝えよう」と悩むばかりで会話はストップ。どんどん自信を無くして余計に無口になるという悪循環に。ずっと留学が夢で、入学後も自分なりに英語に力をいれていた私にはこの経験が本当にショックで、「留学はあきらめよう」と思いつめるほどでした。

目からウロコだった「完璧じゃなくていい英語」支えてくれた仲間たち

「もう、英語には触れたくない…」そんな気持ちで迎えた2年生。ところがアルバイト先のスーパーには外国人のお客様が多く、声をかけられてしまうと黙り込むわけにはいきません。「文法を間違う自分が嫌！」心の中でそう叫びながら、とにかく単語を羅列しました。するとこれが、スムーズに伝わるんです。「完璧な英語を」と思うあまり話せなかった自分には、目からうろこの瞬間でした。キーワードを押さえれば、文法が間違っていても英語は伝わる。臆せず「伝えよう」とすれば、英語は伝わる。このふたつを実感できたことで英語への気持ちも少しずつ前向きになり、ネイティブの先生との授業でも臆さずに話せるようになりました。

「一緒に頑張ろう！」と励ましてくれたGPLPの仲間たちからの心の支えもありました。彼らはとにかく失敗を恐れずに、ばんばんチャレンジを続けるんです。そんな尊敬する仲間たち

と切磋琢磨できる環境にいることができたからこそ、留学をあきらめずにいられたのだと思います。

実りあるアメリカ留学
トラブルは最良の英語学習法!?

その後はオールイングリッシュの授業を受けたりとコミュニケーション中心の英語学習に舵を切り、2年生の秋のTOEICでは入学時より150点以上スコアを伸ばすことができました。そしてアメリカ・ネバダ大学リノ校への4ヶ月の留学。「同じ間違いは繰り返さないぞ」という意気込みもあり、寮生活ではアメリカ人のルームメイトたちとも仲良しに。留学での学びを最大限に活用しようと、授業で行うプレゼンでもあえて読み上げ原稿は準備せず、メモ書きからその場で言葉にする訓練も行っていました。語学プログラムの他にも心理学の講座を受け、他の留学生たちとディスカッションしたのもいい経験となりました。

留学中英語を本当に「使った」と感じたのは、トラブルに合った時でした。いろいろなことがあったのですが、一番の大事件はタクシーにスマートフォンを置いてきてしまったという大失敗です。近くにいた他のタクシーに事情を説明し、紆余曲折の末どうにか見つけることができました。かなりハラハラした体験ですが、悩む暇も無い中で英語を使う状況は、スパルタ式の英語上達方法なのかもしれません。

そんなこともあり、留学で得たものを聞かれると「何が起きても動じないメンタル」と答えていますが、社会的な視点を持つことができたのも大きな収穫でした。ルームメイトの2人はアフリカ系アメリカ人で、彼らが時折話す人種問題・政治問題には日本で過ごしていたのでは体感できない大きな刺激を受け、留学後専攻を社会学に変更したきっかけのひとつにもなっています。

将来は海外大学院への留学も視野に

私の英語ヒストリーはアップダウンの連続でしたが、それでも続けてこれたのは、やはり英語を学ぶことが楽しかったからなのだと思います。その楽しさを最初に教えてくれたのは中学校の先生でした。英語を学べばその先に、まだ見ぬ世界が広がっている。子どもの頃に先生が教えてくれた英語のその先の一歩を、私はGPLPでのアメリカ留学で踏み出しました。

現在私が働いているNTTグループでは、ICTを利用した海外との遠隔教育事業にも力を入れております。私が子供の頃に抱いたワクワクした気持ちを、今度は子どもたちに伝えたい。日本と海外をつなぐ橋渡しとなって、子どもたちに世界を見せてあげたい。現在の世界状況の中でも、私のその想いが実現できる企業に入ることができました。将来的には会社の研修プログラムを利用して海外の大学院で学位を取り、教育から人材育成分野に関する企画職につければと思っています。英語のその先にある階段を、これからも一歩一歩、怖がらず着実に登っていくつもりです。

Interview

2

広島とエディンバラで知った本当の「平和」の意味
世界に耳を傾ける生徒を育てたい

留学先でサークル活動や100人インタビューにチャレンジ
大好きな英語が人間としての自分を成長へ導いてくれた

玉井 日向子 TAMAI Hinako

愛媛県教育委員会（高等学校英語教諭）
教育学部 第三類（言語文化教育系）英語文科系コース 卒業

2019年4月～7月 イギリス・エディンバラ大学へ留学。

帰国前にはバックパッカーに挑戦。
列車を乗り継いでヨーロッパ各地を旅した。お気に入りはスペイン。

GPLPは「英語大好き少女」のネクスト・ステップ

中学3年生の時、出身の愛媛県・新居浜市のプログラムでアメリカに4週間の留学を経験し、英語が大好きになりました。とにかく英語が楽しくて、高校時代には一生懸命勉強し、英検準1級も取っています。広島大学を選んだのも「英語や留学についての知識を深めたい、海外で学びたい」という強い思いがあり、その両方をサポートしてもらえるGPLPプログラムがあるからでした。

英語と留学を目的としての入学でしたが、GPLPで学ぶ内に、自分でも驚くほど様々な分野に興味がわくようになりました。ひとつは、他でも無い「広島」でした。故郷ではなかなか平和について考える機会は無かったのですが、実際に原爆ドームや平和資料館を訪れてみると、想像よりも遥かに深刻な事実に、強く心を打たれました。また、日本史や日本文化の面白さ、奥深さを教えてくれたのもGPLPでした。ものごとというのは、たとえ最初は興味が無くても、知れば知るほど面白くなっていくものです。このことに気がつくことができたのも、GPLPでの大きな学びだったと思っています。

「英語×○○」英検1級の実力を活かして活躍

もちろん英語についても、プログラム内外で努力を重ねました。文法を意識しながら洋書を翻訳し、自分用の単語帳を作ってボキャブラリーを増やす勉強方法は、今も続けています。英検1級はスピーキングでの苦労もありましたが、大学3年時に合格しています。

英語関連のボランティアでは、「中四国地方における伝統的な平屋建築」についての本を翻訳したり、学外セレモニーでの通訳を行ったりと、中学時代から努力してきた英語に、GPLP

で学んだ知識を組み合わせて活躍する機会も得ました。英語と新たな何かを組み合わせれば、自分の世界はどこまででも広げられる。4年間で私が証明したことのひとつだと思ってます。

エディンバラの人々へのインタビューで知った「平和」の多面性

エディンバラ大学に留学したのは大学2年生の時です。授業では英語とイギリス文化を存分に浴びる日々だったのですが、貼り紙から見つけた地元のテニスサークルにも参加してみました。「英語×テニス」の飛び込みチャレンジです。独特な訛りを話す地元の人たちの英語に時に悩まされつつ練習に励み、ペアを組んで大会にまで出場したりと、現地の暮らしをスポーツから体感する貴重な経験ができました。

4ヶ月の留学で最も心に残っているのは、インタビューをして得た結果をプレゼンする授業です。私が選んだテーマは、「原爆」と「平和」。公園に足を運び、数ヶ月かけて約100人にアンケートを取りました。すると「広島に原子爆弾が落とされた」という認識はほとんどの人があるものの、被害や影響などについての知識がある人は、わずか15%ほどであることがわかりました。日本への馴染みが薄い土地柄もあるのかもしれませんが、この数字は衝撃でした。しかしインタビュー後に原爆についての説明を渡すと、多くの人が時に言葉を失いながら深い関心を持って目を通してくれ、「日本に行って原爆についてもっと学びたい」と言ってくれる人までいたこともまた印象的でした。

「核爆弾を持つべきか持たないべきか」という質問では、約30%が「持つべき」と回答。「核爆弾を持っていれば他国から攻撃されず、平和になるから」というのが、私がたずねた「なぜ?」への彼らの答えです。「持つべき」と思う人も「持たないべき」と思う人も、願いは同じ「平和」…どちらの立場の人とも言葉を交わしたからこそ捉えることができた、多面体としての「平和」でした。また、プレゼンの後で「今度は私個人の視点からもう一度原爆を考えてみるね」と声をかけてくれた、日本の戦争に元々いい印象を持っていなかった他国からの留学生も、この授業を通じて私と同じことに気がついたようでした。

英語を身につけ、多くの想いに耳を傾ける人になってほしい

自分の価値観や常識というフィルターを通した一元論的な思考から、それぞれの言葉に耳を傾け、多角的・多面的に実像を捉える思考へ。留学で国籍を超えた様々な人に関わり、対話し、多様な価値観に触れたからこそ得ることができた、私の中での大きな成長です。

卒業後は英語の教師として生徒たちの前に立ちますが、先生としてまず、英語を学ぶことの楽しさを伝えたいと思っています。英語を身につけて、世界を自分の肌で感じ、たくさんの人と対話をしてほしい。そして、多くの想いに耳を傾け、たとえ時間がかかっても、共に頷き合える平和を模索してほしいと思います。「広島」で4年間学んだ今の私から、未来の生徒たちへの心からの願いです。

Interview

3

笑顔を言葉に歩いた三大陸
多様性を受けとめれば人はわかりあえる

ニュースをきっかけに国際問題に興味
差別の無い世界を創るために

柳 千晶 YANAGI Chiaki

東京海上日動火災保険株式会社
法学部 法学科 卒業

2年時でのインターンシップを経て
2019年8月～2020年1月 リトアニア・ヴィタウタス・マグヌス大学へ留学。

セネガルでは「日本人なの？」と喜んで握手を求められることも。
リトアニアの友人は秋田犬を飼っていたりと、海外での「日本」には驚きばかり。

差別と戦いの無い世界を

「日本も戦争になるの？怖い！」祖母から聞いた、戦争のニュースを見た幼い私の言葉です。私が広島大学を選んだのは平和学と国際政治を学びたかったからですが、ずっと幼いときから直感的に、戦争と平和という対極が織りなす世界観に、不安と疑問を抱いていたのかもしれません。

中学生で台湾を訪れた経験から、海外の国と人々に興味を持つようになりました。多感な高校時代はちょうど、テロのニュースが世界を駆け巡りイスラム教徒への差別的言動が激増していた時期です。一部の極端な集団のために関係のない多くが偏見によって差別される。この構図が納得できず、「差別のない世界を創りたい」と強く感じるようになりました。

GPLPとの運命の出会い

入学して間もなく、チラシを目にした瞬間に「これだ！」と運命的な出会いをしたのがGPLPプログラムでした。差別の無い世界を実現するには、自分自身が偏らずバランス感覚を備えていなければなりません。留学に加え平和学や日本文化も学ぶGPLPであれば、広い視野で知識を得ることができます。実は応募の際TOEICの点数がGPLPの基準点より低かったのですが、熱意と意気込みを買って選んでいただけたのだと思っています。

1年生でオーストラリアへ1週間、2年生の夏にはリトアニア共和国に2週間短期留学に行きました。リトアニアは「東洋のシンドラー」と呼ばれるあの杉原千畝が赴任していた国です。平和学の講義に惹かれて選んだ留学先で、ソ連占領時代やホロコーストの歴史など、日頃日本ではあまり馴染みのない東欧諸国の背景を目で見て、肌で感じることができました。

リトアニア人の学生たちとも仲良くなり、いろいろな場所へ連れて行ってもらったのもいい思い出です。

アフリカ、リトアニア
それぞれの暮らし、それぞれの人々

3年生になる直前には、個人的に見つけたセネガル共和国での2週間のインターンシップを経験しました。日本でたまたまアフリカ各国の大使館が出店しているフェスティバルを見かけ、私が知るどの文化とも違う強烈な民族性に圧倒されて「アフリカをこの目で見なければ」と強く思ったからです。公用語がフランス語なので言葉の苦労はありましたが、現地の日本料理屋でセネガル人やインターン生たちと共に働き、仕入れにも出かけたりと、観光では見られないアフリカの「中」の暮らしを見ることができました。

約5ヶ月の長期留学に選んだのは、再びリトアニアです。英語レポートでの苦労や、植民地思想など興味深い講義を受けたりと大学での思い出もたくさんありますが、一番心に残っているのは、仲良しの女子学生の家族と一緒に過ごしたクリスマス休暇です。本棚に聖書が並び、食前にはお祈りをして、気軽に教会に立ち寄る。西洋のキリスト教文化は「宗教」ではなく「生活」なのだと体感しました。秋田犬を飼っていたり、リトアニアではラーメンが大人気だったりと、意外な日本文化が浸透していることも驚きでした。

ヒトはみな違う
自分の目で見たからこそ実践できること

3年間で3つの異なった大陸の文化を体験し、そこで暮らす人々と交流をしました。その中で私が学んだことは、2つあります。1つ目は、人と人は「伝えようとすれば伝わる」ということ。言葉が通じなくても心が暖かくなる瞬間を、私は何度も経験しました。国際交流は言語ではなく「笑顔」と「伝えようとする心」だと、自信を持って後輩の皆さんに伝えたいです。そして2つ目は、人は多様性に満ちた生き物なのだから、それをそのまま「違うんだな」と受け入れるべきだということでした。違う信仰を持ち、生活の些細な部分でも様々に異なる彼らは、それぞれの国で生き生きと生活を営んでいました。人は皆違う。だからそのままでいいし、そのままで受け止め合えばいい。その想いと努力が、差別の無い平和な世界を創る。そう確信できたことが、留学での最大の学びだったと思います。

現在は「楽しいだけではない人の役に立つ仕事を」と探した結果巡り合った、東京海上日動火災保険株式会社に勤務しています。現職においては海外との関わりはありませんが、相手が何を大切にしているかをその人の立場で考えるという、留学の中で培ったバランス感覚が役に立っていると感じています。偶然の中で出会う「人」との交流を大切にすることができる、私らしい仕事だと思っています。

Interview

4

自然とのつながりを断ち切らない日本の「木」の文化
より良い暮らしと住まいへ

中国留学へ行ったからこそ理解できた
設計の面白さと木の奥深さを形にしたい

國井 奏　KUNII So

東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻（修士課程）
工学部 第四類（建設・環境系）卒業

2019年9月～2020年1月 中国・大連理工大学へ留学。

中国の学生たちによる「足し算」な大胆設計に驚嘆。
春節を中国人の友人宅でご家族と過ごしたのもいい思い出に。

家具を作る父の背中から、興味は建築へ

小さい頃から、父が作った家具に囲まれて育ちました。ぼくは東京都出身ですが、今住んでいる広島の家のためにも父に家具を造ってもらったほどです。そんなぼくが中学生で松本城に魅せられて城巡りが趣味になり、建築学を志すようになったのも、住まいと暮らしに寄り添う家具を作る父の背中を見てきたからなのかもしれません。

中国留学の当初はショック続き

GPLPの留学制度では、3年時に約6ヶ月中国の大連理工大学で建築を学びました。東アジア建築を学んで日本建築のルーツを紐解きたい、という思いからでした。しかし留学してわかったのは、海外では建築の芸術性の部分が建築学、その他は土木学の範疇になるということ。ぼくが留学したのは土木学部だったため材料や構造についての授業が大半で、当初は期待していたのと違うなという印象がありました。

実は留学初日、1時間程遅れで空港に到着すると、お迎えの方が帰ってしまった後だったんです。中国語も喋れず英語も通じず、知らない土地を乗り継ぎながらひとりで寮までたどり着くという体験は、今でこそ笑えるものの本当に大変で、このトラブルも含め、留学開始時は不安だらけというのが本音です。

本格的な設計手法との出会いが、人生を変えた

ところがこの半年の留学経験が、ぼくの進む道をがらりと変えてしまいました。大学外では言葉の苦労がありましたが、大連理工大学の学生さんは中国でもエリートで、英語を話します。共同で課題を仕上げる際にも、日本と中国での鉄筋

コンクリートのモデリングについて話し合ったりと、互いの違いを知る充分な討論を行いました。

なによりも最大の学びとなったのは、今後の建築の主流となる設計方法「BIM（ビルディング インフォメーション モデリング）」の授業です。世界標準の実践的なソフトウェアで行われるこの授業を受けたことで、思い描いたイメージを自由に設計し、配管や構造に至るまで解析できる本格的な建築が、初めてできるようになりました。ぼくは現在、建築設計学研究室に所属し、基町高層アパートの日照環境について卒業論文を執筆しています。建築家の設計手法を紐解いたり環境シュミレーションソフトを使って設計したりと、もしも留学をしていなければ、めぐり合うことのなかった道だと思います。

世界から日本を見たから気づいたこと

丹東市から、北朝鮮の暮らしを垣間見る機会もありました。同じ時代を生きているとは思えない光景です。北京では巨額を投じて建設された奇抜なビルに度肝を抜かれ、同時に、マンションに住むことをステイタスとして、無機質なコンクリートや鉄筋に囲まれて暮らす人々の姿も目にしました。

そんな日々の中で徐々にぼくの心に芽生えてきたのが、子供の頃から囲まれてきた日本の「木」の文化がいかにかけがえないものか、ということでした。表情豊かな木の懐の深さを肌で感じながら自然とのつながりを断ち切らずに暮らす、木造建築の素晴らしさ。留学して様々な暮らしを目にできたからこそ、知識として体感として、日本文化の良さに気づくことができたと思っています。

一方で、アフリカ諸国出身の優秀な同級生からの言葉も心に残っています。「地震に耐える建物を建てて、世界最速の新幹線もつくる日本は素晴らしい。おれも祖国に帰ったら、日本みたいな建造物を作ってみせる。」嬉しくて、そして熱い言葉です。日本という先進国に産まれたことは特権ですが、故郷の人々の暮らしを改善しようという情熱や意欲は、彼らのほうがずっと大きい。ぼくたち日本人も甘んじず、もっと大きな夢を胸に勉強に励まねばと発奮させられました。

建築家の卵として再スタート、まずは小さくて大きな夢から

建築とは、「衣食住」における「住」の安全や快適さ・便利さを保証するための学問です。SDGsが叫ばれる現代、人々の「住」をより暮らしやすくするのは何なのか。ぼくは留学を通じて、その光を日本建築の伝統でもある「木」に見つけることができました。卒業後は建築家の卵として、大学院でくらしと木の結びつきについての研鑽を深めていくつもりです。そしていつか、自分が設計した木造建築の内装を父にしてもらいたい。アフリカの友人たちとまではいきませんが、小さくて大きな夢を、今は追いかけています。

Interview

5

GPLPをきっかけに見つけた自分の可能性
夢を口にすることが、仲間とサポーターを呼び寄せる

スキルの掛け算を武器につかんだキャリア
発展途上国にモビリティを届けたい

川原 俊一 KAWAHARA Shunichi

豊田通商株式会社
経済学部 経済学科 卒業

オーストラリア、中国、リトアニアに短期留学。

長期留学の経験は無いながら、3年時にTOEIC890点をマーク。
「自己との対話」を目標に、4年間で100万円を本に費やしたほどの読書家。

何気なく知ったGPLPから、語学と分析力をフルに発揮するキャリアへ

豊田通商株式会社で、中南米・カリブ向けの自動車アフターパーツのトレーディングと、現地代理店の拡販戦略などのサポート業務を行っています。アフターパーツとは、車検や修理時に利用する部品のことですが、実は部品の調達というのは毎回同じルート・方法で行われるのではありません。地域ごとの特性や契約条件をベースに、その都度どこから調達すればコスト・輸送時間低減につながるか、経済・社会動向や顧客ニーズを読み込んで物流戦略を行う仕事です。世界情勢を把握する分析力と、交渉のコミュニケーション力、その両方を可能にする語学力が必要となるこの職場で、学ぶことは多いながら自分の能力を最大限に発揮できる充実した毎日を過ごしています。

こう言うとまるでぼくが昔からバリバリの海外志向と英語力を胸に大学に入学したように聞こえるかもしれませんが、実はそうではありません。GPLPへの応募は入学通知に入っていた案内がきっかけです。もちろんグローバルに活躍できる人材を育てるプログラムなのですが、1年間の自宅浪人後だったぼくの心にその時に浮かんだのは「GPLPに参加すれば、いろいろな人と関わることができるのかも」という単純なもの。しかし、プログラムで知り合った優秀な仲間たちとともに語り合い、英語の勉強に励み、リトアニアや中国への短期留学を経験するに従って、「まさかこのぼくにこんなチャンスが訪れるなんて！」という『気持ち』が、いつしか「世界をターゲットに自分の可能性を極限まで追求してみよう」という『意欲』へと変わっていきました。

「大人」との対話から芽生えた語学と
グローバルキャリアの軸

現在のキャリアに影響を与えたできごとのひとつは、リトアニアへの2週間の留学で企業研修の方々と語り合う機会に恵まれたことです。今後グローバルが標準となるビジネスの世界において、充分な英語力は必須であること。海外に関わる仕事に進むのであれば、しっかりと業界を定めてからキャリアを積む必要があること。海外で活躍する大人と2週間膝を突き合わせ、実体験からのアドバイスを伺うことができた経験は、英語の勉強へのモチベーションの、また自分がグローバルキャリアの道を選択する軸となったと思っています。

GPLPプログラムの英語力指導担当の教授にも、大きな影響を受けました。IELTSや英検の面接練習など個人的な英語の勉強でもお世話になりましたが、語学だけでなく「なぜ英語を勉強するのか」という根本からのお話もしていただきました。「英語を専門としない経済学部の君が英語を頑張ったほうが、将来稼げるぞ！」と冗談めかしながら、「スキルの掛け算」が夢を叶える強い武器になると教えていただきました。

できなかった長期留学、くじけない心

ぼくは残念ながら、長期留学を経験していません。4年生でタイのチュラロンコン大学に半年間留学に行く予定だったのですが、新型コロナウィルスの影響により留学自体ができなくなってしまったからです。留学準備に励んでいた矢先の突然の中止。かなりショックを受けたというのが本心です。教授から、教授職につく前には長期留学経験がなかったというお話とともにいただいた「環境は関係ない。大切なのは君自身」という叱咤激励の言葉は、今に至るまで『くじけない』自分の土台となっています。

おすすめは、夢をあちこちで「有言実行」すること

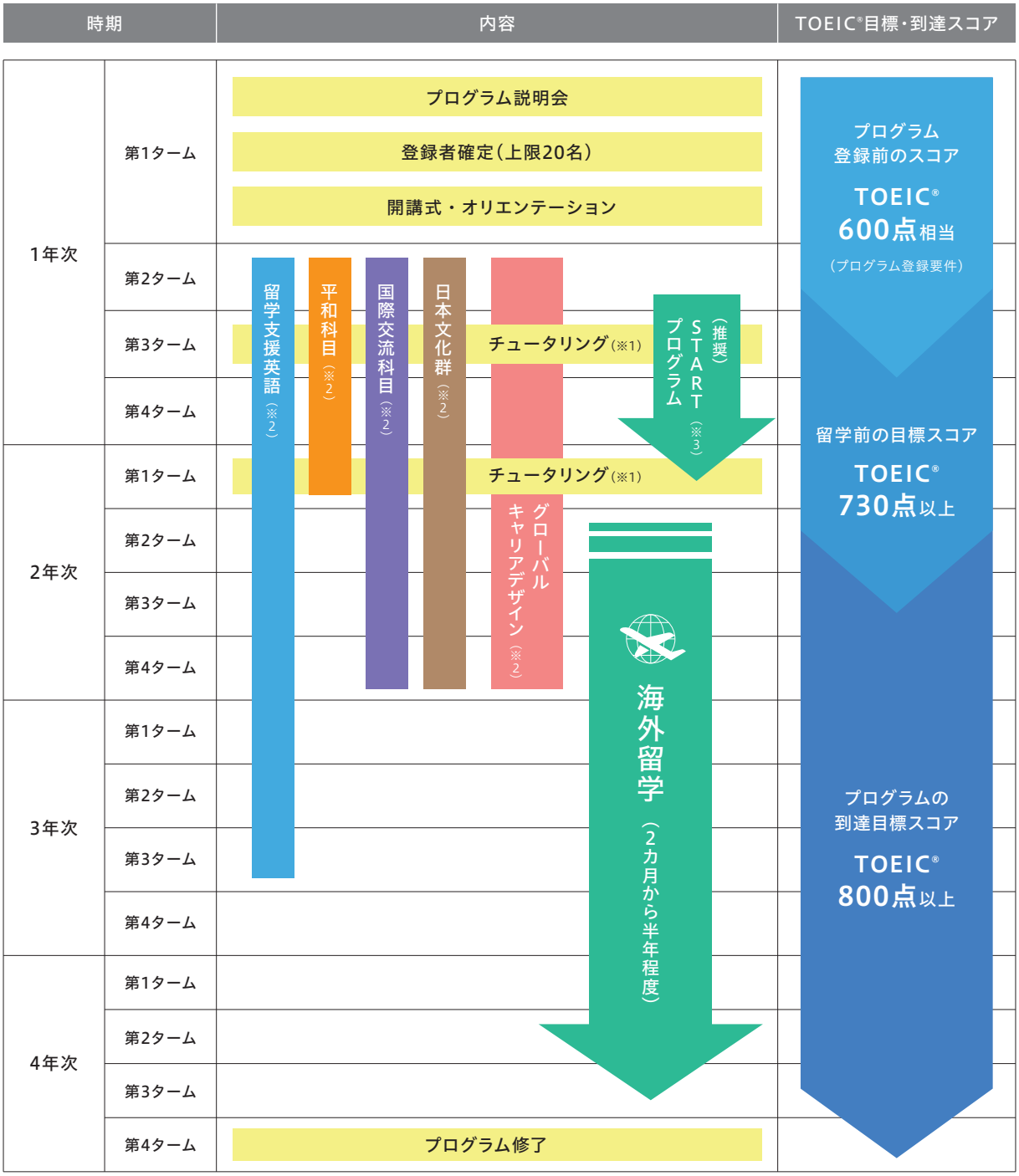
現在の会社は、10社ほど行かせていただいたインターン経由で選びました。世界を相手にする仕事で、若手も活躍できる社風があったことが理由です。先進国においての自動車は自動運転や電気自動車などの方向に進んでいますが、自動車そのものが普及していない途上国もあります。そういった国々にモビリティの価値を届けることが、ぼくの使命だと思っています。

最後に後輩の皆さんへ。人生を切り開く第一歩は、まずその夢を口に出すことです。ぼくは入学したてのころ、出身の尾道市の市長になりたいと本気で思っていて、大人の人たちから面白がられていたのですが、大きな目標＝夢を周囲に向けて言っておくと、皆が応援してくれるんです。たとえその時には不可能に思えるとびきり大きな目標でも、言葉にして伝えることで、サポートをしてくれる素敵な大人がたくさん声をかけてくれます。リトアニアで知り合った企業の方々、GPLPの先生たち、スタッフの方々…ぼくが大学時代に体験したことです。実は就職面接でも「経営者になりたいです」と現在の目標をこたえたら、部長から配属の日に早速「君は経営者目指してるんだよね？」と。GPLPプログラムのその先の大きな夢、皆さんはなんと叫びますか。

Global Peace Leadership Program カリキュラム概要

登録要件　TOEIC® スコアで概ね600点に相当する英語コミュニケーション能力を備えていることが必要です。1年次第1タームに説明会を開催の上、プログラムの登録募集を行い、志望動機及び面接審査等により登録者を決定します。

修了要件　以下の一覧で示す科目群(※2)を計14単位修得し、かつ各学部が推奨する海外留学等、プログラム担当教員会が認める海外留学に参加することが必要です。また、プログラムが掲げる到達目標「TOEIC® 800点」に到達するため、全学一斉TOEIC® L&Rテストの積極的な受験を推奨しています。



※1.留学目的に沿う留学プログラム、留学へ行くための要件、卒業までの履修計画及び留学先での履修科目の確認等をプログラム登録学生、プログラム担当教員会とともに複数回にわたって実施します。
※2.各科目群の具体的な授業科目は、本特定プログラムのウェブサイトをご覧ください。
※3.海外経験の少ない学生が、海外の大学やその周辺都市を訪問し、異文化体験などを通じて国際交流や留学への関心を高め、在学中に中長期留学や海外研修に積極的に参加する動機付けを行うことを目的とします。

各学部が推奨する海外留学

総合科学部	学内留学プログラム（HUSA プログラム等）を推奨。 派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地修得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は複数学期教育を受けて単位を修得する。留学先で現地の学生と同じ授業を受講し、語学力の向上や専門知識の修得を目指す。
文学部	HUSA プログラムを推奨。派遣先の言語・文化を理解しつつ、ハイレベルな国際感覚、批判的思考などを身につけ、日本語や英語を駆使して日本と世界の橋渡しができる人材の教育を目的とする。
教育学部	HUSA プログラムを推奨。 派遣留学先は、各プログラムの指導教員等との相談で決定。
法学部	大韓民国・崇実大学校法科大学への留学を推奨。 英語による法律科目の受講及び国際法律模擬裁判への参加などを通して、語学能力の向上だけでなく、専門知識を英語で学び、それを積極的に活用できるグローバルな法学人材の養成を目的とする。
経済学部	HUSA プログラムを推奨。日本とアジアの市場経済システムにおける制度的・文化的相違を理解し、グローバルに通用する論理的思考力を備えた、アジア全体の安定した経済発展に貢献できる人材の育成を目的とする。
理学部	派遣留学先は、主専攻プログラムの教員との相談で決定。 派遣大学としては、アジア地域、欧米地域を予定している。
工学部	HUSA プログラムを推奨。 派遣留学先は、各プログラムの指導教員等との相談で決定。
生物生産学部	タイ・カセサート大学農学部及び協定学部への留学を推奨。英語による専門科目を履修するとともに、国際的な研究やその成果発表を英語で行うことができるよう養成する専門的な英語教育や、グローバル人財育成教育を目的とした国際課題研究を履修。また、授業の履修に加え、カセサート大学が主催するインターンシップに参加し、生物資源の生産から加工、流通、消費まで総合的に学ぶ。
情報科学部	情報科学部海外協定校派遣プログラムでの留学を推奨。同プログラムの留学は４年次生のため、２～３年次生は、各プログラムの指導教員等との相談のうえ決定。

医学部、歯学部、薬学部の学生については、プログラム登録後、個別に相談。上記の各留学プログラムは一例であり、他の留学先を各自で選ぶことも可能。

Global Peace Leadership Program 登録学生の主な海外派遣先大学等

国・地域		大学名等
北米	アメリカ	ミネソタ大学、ネバダ大学リノ校
ヨーロッパ	イギリス	シェフィールド大学、カーディフ大学
	ドイツ	ハンブルク大学、オスナブリュック大学
	リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学
	オランダ	アムステルダム大学
	フィンランド	ユヴァスキュラ大学
アジア	マレーシア	マラヤ大学
	タイ	チュラーロンコーン大学、カセサート大学
	中国	大連理工大学
	台湾	国立台湾大学
アフリカ	エジプト	カイロ大学
オセアニア	オーストラリア	グリフィス大学

▼詳細情報はこちらを参照ください

GPLP
Hiroshima Univesity
Instagram

HIRODAI_GPLP

More on Instagram!

広島大学 教育推進グループ（学生プラザ3F）

〒739-8514 東広島市鏡山1-7-1

E-mail: gsyugakukm-group@office.hiroshima-u.ac.jp

詳しくは 広島大学　GPLP 検索